

【第3号様式】おきなわSDGs認証制度 繼続認証 主要評価項目（アクションプランに基づく活動計画書）

1. 団体情報

企業・団体名	株式会社青い海
--------	---------

初回申請から更新した箇所は黄色セル

2. 申請内容

(1) 2030年のあらべき姿（ビジョン）※記載必須

2030年のあらべき姿（ビジョン）		2030年のあらべき姿の実現へ向け取り組むゴール	
* SDGsの目標である2030年までに、「（2）今後2年間で特に注力する活動・取組」の実施によって、貴社/団体が目指す未来を記載ください。 （貴社/団体が目指したい社会、目標の達成に向けて貴社/団体ができる課題、それに対して貴社/団体ができる取組の方向性など）		* SDGsの17のゴールから選択し、アイコンを入れてください。	
私たちシマース本舗は、「沖縄から"おいしい"の起点に」を合言葉に、誰もが「おいしいね」と笑いあえる、人々のすこやかな暮らしを、環境を、作りたいと願っています。	1 人権と平和 3 経済成長 4 環境保全 7 持続可能な都市 8 生産的成長 9 地域開発	11 市場開拓 13 リソース循環 14 生活文化 15 生態系保全	
沖縄を代表する企業となるべく継続的なこれらの活動を続けることで、お客様、従業員にも、また地域社会や自然環境に対しても、豊かな未来をつくっていけると信じています。			

(2) 今後2年間で特に注力する活動・取組 ※最低3個（経済・社会・環境）は記載必須

No.	今後特に注力する活動・取組		おきなわ SDGsアクションプランとの関係性			関連するSDGsターゲット	補足事項・留意点等	該団体におけるKPI（進捗管理指標）		
	概要	分類 * 任意の箇所は、ブルダグ ンから分類を選択ください。	優先課題	SDGs推進の目標	関連するSDGsターゲット			管理する指標	現状値 (2025年)	目標値 (2027年)
1	食用塩の安定供給	経済	必須 優先課題④	④-3 沖縄県農林水産物のブランド化による県外消費と地産地消の促進により農業・林業・水産業の産出額等の拡大を実現する。	9.5	食品・飲料メーカー、スーパー、CVS、飲食チェーン	*連携・協力するステークホルダーがいる場合に記入する。	海水塩（沖縄の海水100%）の出荷トン数	553トン	609トン
2	従業員給与の賞上げと、賃金テーブルのベースアップの実行	社会	必須 優先課題④	④-5 働く意欲のある人に雇用の機会が確保され、沖縄社会全体で完全かつ生産的な雇用を実現する。	8.5 8.6	弊社従業員		基本給 全体平均引き上げ率	6.2%	10.0%
3	工場全体のCO ₂ 排出量の削減	環境	必須 優先課題⑥	⑥-2 2030年度カーボンニュートラルの実現に向け、本県の地域特性に合ったグリーンエネルギーの導入拡大やエネルギー対策の推進、二酸化炭素吸収源対策等が進み、災害に強い島しまの脱炭素社会に向けた基盤形成を実現する。	13.3	工場リユースルを依頼する提携企業（リユースル設計：味の素EG、機械メーカー：木村化工機）		CO ₂ 排出量 (スコープ1+2)	5,400 t-CO ₂	4,320 t-CO ₂
上記の取組に加えて、今後特に注力する取組があれば、記載ください。（分類を「経済・社会・環境・ガバナンス・地域課題への貢献・国際課題への貢献」から自由に選択ください）										
4	従業員が幸せになれる職場づくり	社会	任意 優先課題④	①-5 安全・安心で充実感を持って働くことができる労働環境を促進し、誰もが生き生きと活躍できる社会を実現する。	8.5 8.6	弊社従業員		従業員満足度調査 総合満足度スコア	67.4	70.8
5	自社所有観光施設「Gala青い海」での工芸市の定期開催	社会	任意 優先課題⑪	⑪-3 伝統文化・歴史・伝統行事を若い世代が継承し、世代や国を超えた発信を行い、多様な交流が広がっている社会を実現する。	11.4	県内工芸作家	前回申請時から2→3回へ未 施回数を増やしました。今回の KPIは増加目標を設定していま せんが、開催維持を目指とし ます。	工芸市 開催回数	3回/年	3回/年 (開催維持)

(3) 各活動・取組に関する詳細 ※記載必須

各活動・取組に関する詳細

* 各取組内容を詳細に記載ください。なお、取組については現時点の達成度に限らず、将来的な展望や今後目指す展開についても必ず記入してください。

取組 1	取組の詳細	県内でのブランド戦略（露出の増大、県内企業とのコラボレーション）を進めるとともに、市場の認知拡大と県内各スーパー等での配下・シェアを増やす。同時に県外では業務用（食品工業用）を主軸にアプローチを行い、場の出荷トン数を増大させる。
	取組において、現時点で実施／決定していること	製造工程を平釜から立釜（真空蒸発缶）へと変更し、生産効率と品質を向上させることで、出荷量にも対応可能な体制・顧客へのニーズにあわせた商品の供給体制を構築する準備が進行中。
	取組において、今後予定していること	2026年初めに（上述の）新工場・新設備が稼働スタート予定。（エネルギーの低減、生産スピード・効率の向上、品質の向上によって顧客へのPR力が向上）年度末までは、製造の最終行程である「包装行程」も自動包装設備を導入予定。（生産効率の向上）
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	沖縄ブランド・沖縄の海水100%で作る海水缶（市場では比較的の中流以上の価格帯）の指名買いがこれまで多かったが、生産キャパの問題で供給が十分に行えていたかった。新設備の稼働で、生産効率が飛躍的に向上することで、そのニーズに耐えることができる。（直近で、456トン→473トン→536トン→553トン、と推移）
	取組を推進する体制	経営層・各部門・部署の部門長・課長級が出席する。本社戦略マネジメント会議を月次で開催し、PDCA管理を行う。実際の実働部署は、東京営業部や沖縄営業所の営業メンバーがアプローチを行う。企業コラボや戦略については、マーケティング企画課が担当。
取組 2	取組の詳細	2021年に策定した人事制度（目標管理制度）と賃金制度についての見直しを実施。全社的な賃上げと、昇給テーブルの各評価毎の昇給額テーブルの見直し（金額の引き上げ＝ベースアップ）を検討。
	取組において、現時点で実施／決定していること	2023年より、毎年大幅な（世間相場を超える）賃上げとテーブルの改定（引き上げ）を実施してきた。2024年は平均賃金を10.6%引き上げ、2025年はさらに6.2%引き上げ実施。
	取組において、今後予定していること	賃貸の大幅上昇も勘案し、2026年4月にも、全体的な大幅賃上げを実施する予定。（基本給と昇給テーブルの引き上げ）
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	会社業績と、各人給与やテーブルの引き上げシミュレーションを何度も行い、引き上げ内容はすでに決定している。 →基本給が全体平均で5%/年程度上昇する見込みとなっている。
	取組を推進する体制	経営層と各部門長で構成される部門長会議で検討。要素の提出や、決定後の実務に関しては、経営企画部にて実施する。
取組 3	取組の詳細	製造工程を平釜から立釜（真空蒸発缶）へと転換し、エネルギー使用量が大幅に低減、結果として工場全体のCO ₂ 排出量を20%程度削減させる。
	取組において、現時点で実施／決定していること	上述の新工場・新設備への投資実行が、2025年中に完成する。年明け2026年からは新設備のみで生産を行っていく。
	取組において、今後予定していること	2026年から新工場・新設備／新工法での生産を予定している。（生産スピード・効率・品質が向上）
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	新旧工場での使用エネルギー量を算出し、CO ₂ 削減シミュレーションを実施。補助金獲得時に提出・認定を受けている内容なので、KPIとしては挑戦的ではあるが、妥当な数字となっている。
	取組を推進する体制	経営層・幹部で構成される工場リニューアルPJTを月次で実施、課題について検討と対応を行っている。全社的な取り組みになるため、すべての部署が対応をおこなっています。
取組 4	取組の詳細	会社や経営者の考え方・ビジョンを共有し、職場環境を整え、従業員の満足度を高め、成長を支援できる職場づくりを行つ。
	取組において、現時点で実施／決定していること	経営層との個人面談、上司部下との定期面談の実施。各階層ごとや選抜メンバーへの研修（社内外）、AI講座の実施。フレックスタイム制度や、資格取得報奨制度を直近で導入。
	取組において、今後予定していること	（ほとんど無いのだが）有給休暇失効時の積み立て制度を導入予定。 健康診断メニューの拡充、婦人科検診の会社負担制度を導入予定。
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	経営層と従業員、また従業員同士のコミュニケーションの質・量が向上していると感じている。 5年前から年1回実施している従業員満足度調査の総合満足度は年々向上している。これ以上上げることは少し限界を感じているが、年5%上昇する目標（×2年）で設定した。
	取組を推進する体制	経営企画部がリース、各部門毎で無記名実施をする。最終、経営企画部にて集計して開示。
取組 5	取組の詳細	自社が運営する読谷村の観光施設「Gala青い海」で、大規模な伝統工芸の即売市を、年3回開催する。 →春のやちむん市、読谷やちむんと工芸市、琉球ガラス市
	取組において、現時点で実施／決定していること	4年前より、自社の観光施設内で、地域の伝統工芸作家さんを集めたイベント・即売会を定期開催している。
	取組において、今後予定していること	年3回の工芸市（イベント開催）を維持し、毎年開催する。
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	前回申請時は、年2回の実施維持していましたが、この数年で沖縄県琉球ガラス製造協同組合との連携を深め、琉球ガラス市を実施することができます。（県内初の試み） 大規模な即売会、文化振興の側面からも、年3回の工芸市実施を維持したいと考えています。（KPIの向上目標とはなっていないですが、維持することが簡単ではないと考えています。）
	取組を推進する体制	経営企画部を中心に企画、Gala青い海が主軸となって運営を行う。